ホステリングマガジン vol.31 / 2022 Winter

JAPAN Youth Hostels, Inc.

Hostelling Magazine

Cover Interview

アン ミカ

人生の選択に迷ったら、
心がワクワクする方へ。

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

ヤマザキ

ランチパック

公式webサイト
ランチパック 検索

ランチパック
情報をチェック！

公式Facebookページ
www.facebook.com/lunchpack.jp

「100年も先のことは、わからない」
なんて言うのはやめよう。
そう決めました。

サントリー
天然水の森
PROJECT.

サントリーの天然水は、森に降った雨が、
およそ20年かけて
森の大地でゆっくり濾過され、
ミネラル分を授かって
おいしくなった地下水。
健やかな森の力を借りて生まれます。
天然水を未来につなぐために、
森を元気にする。
それが私たちの大事な仕事になりました。
これからも、ずっとずっと
水と生きていけますように。

サントリー「天然水の森」は
15都府県21カ所、総面積約12,000ha。
これは、国内工場で汲み上げる地下水量の
2倍以上の水を育む広さです。
（2019年6月現在）

水と生きる SUNTORY

天然水の森 | 検索

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。

日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟（Hostelling International）や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

※本誌の情報は2022年12月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 眞
TEL. (03)5738-0546
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

Line up

02 Cover Interview
アン ミカ
人生の選択に迷ったら、心がワクワクする方へ。

08 Youth Hostel Pick up
大阪市立長居ユースホステル
スタジアムにある"だけじゃない"ユースホステル

12 Hostelling Magazine × 地球の歩き方
伝統文化と歴史に根ざした日
世界のイベント&祭り

15 FYI, from HI-Office

16 LiLiCoの映画で世界を旅しよう！

17 おしえて! 旅GIRL

18 松鳥むうの晴れときどき旅びより

20 YH-GUIDE ユースホステルガイド
東海/近畿地方

人生の選択に迷ったら、心がワクワクする方へ。

Hostelling Magazine
Cover Interview

Mika Ahn
アンミカ

PROFILE

モデル・タレント
アン ミカ

93年にパリコレ初参加後、モデル業以外でも、テレビ、ラジオ、ドラマや映画、時には歌手として、様々な表現分野で活躍。
野菜ソムリエ、漢方養生指導士中級、ベジフルビューティーアドバイザー、NARDアロマアドバイザー、化粧品検定一級、ジュエリーコーディネーター3級など20の資格を活かし、服やコスメ、ジュエリーなど商品プロデュースを展開。
ポジティブな考え方、幸せな生き方を提唱すること講演会も人気で、幸せに関する本も多数出版。

ワンピース¥198.000(レオナール ファッション/三共正興ファッションサービス tel.03-5651-7890)イヤリング¥935,000(アジュテ ア ケイ/京屋 tel.088-831-0005)
Photo:小林潤次(七彩工房)/Stylist:加藤万紀子/Hair & Make up:古本和重(&'s management)

母の何気ないひと言が、モデルの道を志すきっかけに

—— アンミカさんがモデルの道を志すきっかけはどんなものだったのでしょうか？

きっかけは、幼少期にかけられた母からのひと言です。
私、小さい頃に口の中を大怪我して、上手に口を開けられない後遺症が残ってしまっていたんです。母と一緒に口角を上げるリハビリをしている時、「ミカちゃんってよく見たら手足が長いからモデルになれるかもね！」と、口元にコンプレックスを抱いていた私に励ましの言葉をかけてくれたんです。
私は全員年子の5人兄弟の3番目なのですが、うちの家族はみんな背が高くてスラっとしているんです。父も180cmあったし、母も165cmぐらいありました。でも、私は2500gぐらいで小さめに生まれて、子どもの頃は家族の中で私だけ背が低くて「橋の下で拾われたの？」とずっと周りから言われていました(笑)。だから、自分がモデルになるなんて思いもしなかった。でも、子どもの時に家族から褒められたことって、信じちゃうじゃないですか。その母の一言を聞いてからは、鏡を見て口角を上げる練習をしながら「私、モデルになれるんだ！」ってモデルになるイメージが膨らんでいったんです。

—— ポジティブな言葉をかけてくれる素敵なお母様！

当時、私は少し引っ込み思案な性格で、怪我の後遺症を周りの子にからかわれて傷ついていた時、私が上を向いて笑顔でいられるように“4つの魔法”というのを教えてくれたんです。
[いつでも姿勢よく過ごすこと] [笑顔は忘れずに] [話す時は相手の目を見て] [聞き役も立派な喋り役だから、喋りが苦手だったらよく聞くこと]
これらができると母はすごく褒めてくれるので、“褒めてくれたこと＝特技”だと自分でも思うようになって、小学校二年生ぐらいからは明るく前向きな性格になることができました。

—— Hostelling Magazineの読者は10代〜20代の学生の方が多いのですが、アンミカさんが学生の頃はどんな生活をされていたのでしょうか？

小学六年生から兄弟の新聞配達について行きだして、高校三年生まで新聞配達のアルバイトをしながら、15歳の頃からはモデル活動もしていました。でもモデルの方は当時は鳴かず飛ばず…という時期でしたね。高校は進学校だったので、大学に進学することも考えたんですけど、家があまり裕福ではなかったので、「大学に行くよりもモデルとして働きたい」という気持ちの方が強かったです。
その気持ちを両親に伝えると、[一流モデルになるまで家に帰らないこと] [新聞を読んで自分がワクワクする、社会の役に立ちそうな資格を取ること] [一人暮らしをして世間のお金の厳しさを知ること]という3つの条件と引き換えに進学を諦めてモデルに挑戦することを許してくれたんです。

—— お父様はモデルになることを反対されていたのですか？

反対はされませんでしたけど、父はモデルを目指す手段として社会に媚びることを許さない人でした。自分の意思で何かを表現する“表現者”になるとか、“誰かの役に立つ”というビジョンが見える仕事に就くことを求めていたんだと思います。「社会の一員として役に立っているという喜びを感じられて、ワクワクするような勉強をしなさい」とか「お金は“経験”に使いなさい」という教えを受けていたので、子どもの頃から新聞を読んで父と討論をしていました。
新聞を読んでいると、社会がどこに向かっているかが見えるし、読めるようになっていくと思うんです。その結果、モデルのオーディションに行った時も、

自分の言葉で「今社会がこういう方向に向かっていると感じるので、私はこんな場面で役に立つ、こんな勉強をしています」というアピールができるようにもなりました。また、時間を見つけては資格試験の勉強をして、資格をたくさん取得してきたのも、父の教えがきっかけですね。

—— ポジティブな言葉をかけてくれるお母様と自分の意思を持つことの大切さを教えてくれたお父様。2人の存在が、今のアンミカさんの“ルーツ”なのですね。

裕福な家ではなかったのですが、心は豊かで家庭はとても明るかった。狭い家でも「みんなでくっついて温かいよね」って思えたし、つらい事も多分あったと思うんですけど、楽しい思い出の方が多いんです。母は私が15歳の時に、父は私が29歳の時に亡くなってしまったのですが、愛情深い両親に育てられたのは幸せでした。

パリコレデビューで世界が一変 NY進出を狙ったものの…

—— アンミカさんのモデルとしての転機は、パリコレデビューだったのでしょうか。

そうですね。高校を卒業する時にそれまで所属していた事務所を退所してから約1年間、どこの事務所にも所属していないフリーランスの“自称モデル”状態だったんです。ちょっとしたモデルのアルバイトで生活していたので、この頃は苦しかったですね・・・。
それでもなんとか自力で渡航資金を貯めて、19歳の時に初めてパリに行きました。コレクションの時期に数週間現地に滞在して、オーディションの雰囲気を掴んで。一旦帰国して日本でまた渡航費を貯めて再びパリへ行って、パリコレのランウェイを歩く機会を得ることができたんです。
パリコレから帰国すると、世界が一変していました。今までどこの事務所でも見向きもされなかったのに、事務所と契約することもできて。「大阪にパリコレに出た子がいるよ」と東京の関係者にも情報が伝わって、大阪だけでなく東京コレクションへの出演や雑誌にも取り上げられるようになって。そこからパリと日本を行ったり来たりする生活を3年ほどしていましたね。

—— ニューヨークでのモデル活動にも挑戦されたそうですね。

パリで「あなたはニューヨークの広告向きだ」と言われたのがきっかけでした。パリコレはお金にならないけれど、ニューヨークの広告はお金になる、と言われて「よし！やってみよう」って（笑）。25歳の時でした。ちょうどその時、ヴィダルサスーンの世界CMの出演が決まって、そこから自信をつけてニューヨークの下見に行ったんです。でも、行ったら結構散々な目に遭ってしまって…。

—— 一体ニューヨークでどんな事があったんですか…？

空港に着くと荷物がなくなっていて、居候させてもらう予定だった友達がパートナーと揉めて泊まる所がなくなってしまい、いきなり宿なし・荷物なし・お金なし状態になってしまいました…。それで、以前一度渡米した際に好感触だった事務所へ頼りに行ったら、「前に来た時よりもアジア人のモデルが増えたから今はいらない」って言われちゃって。私、盲信は全くしていないのですが、占いが結構好きで。実はニューヨークに行く時、色んな占い師の方から「方角が悪いから行かないほうが良い！」って止められたのですが、行ってみたら本当につらいニューヨーク滞在でした…。
でも、行ったことに後悔はありません。実はこの時、活動の拠点にしていた大阪から逃げるようにニューヨークへ飛んだので、「そんな気持ちでチャレンジしてもいい結果にはつながらない」という気づきが得られたと思っているんです。

留学しなければ気づけなかった 自分のルーツの温かさ

—— 「大阪から逃げるようにニューヨークへ飛んだ」のはなぜだったのでしょうか？

25歳の頃は、パリコレデビューを契機にモデルとして安定してお仕事をいただけるようになっていて、大阪のコレクションには“不戦勝”ぐらいの感覚で毎年出演していたんです。周りからも「大阪といえばアンミカさんが取るよね。今年は何本出るのかしら」ぐらいに思われていました。なのに、その年のオーディションは全部落ちてしまったんです。ちょうどその時期はロリータ風のファッションがトレンドになっていた頃で、私のキャラクターとは合わなかったのが影響してしまって。それでも、すべてのオーディションに落ちたことが受け入れられず、ショーが行われている期間中、大阪にいるのが嫌で準備不足のまま飛び出してしまいました。でもやっぱり、逃げるように行っても良い結果にはならないんだなというのをこの時に痛感しましたね。

—— 30歳の時にはご両親の母国である韓国へ留学されたと伺いました。

留学を決めたのは、私に教養や意思を持つことの大切さを教えてくれた父の死がきっかけでした。
両親のお墓を作りに家族全員で初めて韓国の土を踏んだ時、私達は韓国の親戚に「よく生きて頑張ったね」って抱きしめてもらえる、感動の再会ができる…と期待していたんです。ところが、実際は言葉が通じないがゆえの誤解が生まれてしまうという経験をしました。それが悲しくて、自分のルーツを正しく知るためには兄弟の誰かが韓国語を話せるようになって、誤解を解いてちゃんとお互いの愛情を伝え合わないと父も母も悲しむなって思って。当時はちょうどサッカー日韓ワールドカップの半年前で、「ワールドカップに間に合うように韓国語を習得してまた日本に戻ってこよう！」と決めて、当時レギュラーで出演させていただいていたお仕事を3カ月お休みして語学留学することにしたんです。

—— 留学先ではどんな経験をされたのでしょうか？

当時日本に住んでいる時には知ることのできなかった韓国の実情を知ることができたのは大きかったですね。例えば、明洞（ミョンドン）の街を歩いているときに突然若い子に写真を撮られたことがあったんです。なぜ私の写真を撮ったのかを尋ねたら、「日本から来たんでしょ？ヘアメイクも服も日本っぽくてカッコ良いから撮っちゃった！」と言われて。彼女の祖父母世代にはまだ日韓関係にわだかまりがあるけれど、若い子達は日本に対してすごく憧れを抱いていて、実は日本のことが大好きなんだということを知ることができたんです。
現地に暮らしてお互いの文化を知り合い、交流を深め合うことが

楽しくなるにつれ、留学期間も半年、1年…と延びてしまい…当時所属していた事務所からは怒られましたが（笑）、この時の経験は私にとって宝物です。韓国留学を終えてからは韓国のトレンドを紹介するテレビ番組にレギュラーとして出演させていただいたり、韓流ブームで韓国語を勉強する方が増えたので解説のお仕事をいただいたり。努力が報われたなと感じます。

「やってみた」という経験は結果がどうあれ宝物として残り続ける

―― アンミカさんの行動力の「源」は何なのでしょうか？

「調べても分からないから、行ってみよう！」という意思や環境が大きかったのかな、と今は思います。スマートフォンや携帯電話は、離れた家族や好きな人とも繋がれるし、災害時にも役立つし、知りたい情報が簡単に手に入ります。でも、行ってみないとわからないことってたくさんあるんです。例えばある場所について「肌が痛くなるほど寒い」という情報を事前に知っていたとしても、いざ行ってみないとその感覚ってわからないですよね。私はその土地の空気感は五感を使って感じることが大切だと思っているんです。

―― 確かに空気感って文字や映像では伝えきれないものですよね。アンミカさんは旅でなく、生活の拠点も大きく変えていますよね。決断をする上で迷いはなかったのでしょうか？

私も韓国に留学する時はやっぱり怖かった。「あのトークショーは別の人がやるんだ」とか、「このショーは別の子がやるんだ」と考えると怖くて怖くて仕方がなかったですね。
ただ、決断には常にリスク（危険）とベネフィット（利益）がセットになっていると考えています。例えば社会人になってから留学をするなら、日本での安心した生活や築いてきた安定を一回お休みしなきゃいけない。「他の人に私の仕事が奪われてしまうかもしれない」と、決断できない人も多いと思うんです。でも、実はそれって幻想なんです。冷静に社会の仕組みを見渡すと、自分の代わりはいくらでもいるし、代わっていくものなんですよ。
新しいチャレンジがしたいのだったら、自分の代わりに仕事をしてくれる人に感謝しなくちゃ。ワクワクする方を選んで、帰ってきたときにそのワクワクを語れる人になる。「次の世界を楽しむんだ！」っていう風に進まないと、と思うんです。これって考え方や意識の問題。私は、今まで見たものと全く違う景色が見られるのなら、今の景色を手放す方が建設的だと思っています。

―― 何か大きな決断に迷っている人の背中を押すとしたら、どんな言葉をかけますか？

以前ある尊敬している方に「結果がどうあれ、やってみることは大事。『経験』という宝が残るから。それに、『私もやろうと思ったんだけど、やらなかったんだよね』って言い訳する自分ってカッコ悪くない？」と言われたことで、私は留学を決断することができました。
“やらなかった”経験は、実際に経験した人と自分を比べて、落ち込んだり妬んだりしてしまいます。でも、“やった”経験は、同じことをやって成功した人に対して「すごい！私もやったの！」って対等な立場で言えるし、「すごい大変だったよね！がんばったね！」と相手を認められるようになります。私自身、韓国留学はイチかバチかの決断で、帰国直後は「自分の選択は正しかったのかな」と落ち込んだりもしたんですけど、今では「間違ってなかった」って思っています。韓国のことを喋る機会や、伝える機会に恵まれて、日本と韓国両方の国の良さを伝えられる人間になれましたから。

現地の言葉や文化を知れば、旅はさらに楽しくなる

―― これまでの海外経験から学んだ、アンミカさん流の海外の方と仲良くなるコツはありますか？

私は必ずその国の「ありがとう」「ごめんなさい」「お元気ですか？」「美味しかった！」「ごちそうさま」を暗記して行くようにしています。そうすると、例えばフランスならはじめはフランス語で挨拶をしたり、何かをしてもらった時にフランス語で感謝の言葉を伝えると、現地の人は喜んでくれます。その上で、相手の話していることがわからなかったら謝って、「私、フランス語は喋れないんです。でも、もしよかったら英語でもいいですか？上手くはないんですけど」って言うと、みんな優しいんですよ。よく「フランス人はプライドが高くて英語で話しかけると無視する」なんて言われますが、実際は本当に英語を喋れない人が多いだけなんですよ。
フランスに限らず、どこの旅行に行くときも「この国のこのフレーズだけは暗記しておこう」って準備して行くと、親切にしてもらえるのでぜひ実践してみてください！ただし、国によっては街中でガイドブックを開いていると危ないこともあるので、付箋に書いてお財布に貼っておいたり、スマホにメモしておくのもオススメです！。

—— 旅をする際に気をつけていることはありますか？

その国で“やっては駄目なこと”は調べておきますね。例えば、子どもの頭を勝手になでるのは、そこに神様がいるからNGと言われる東南アジアの国もあったりするので、やっちゃいけないマナーは最低限覚えておくと旅が楽しめると思います。
あとは、旅の計画を立てるけれど、計画が崩れても気にしないようにしています。もし行きたかったけど行けなかったという所があっても、「また次に来た時の楽しみにしよう！」って思えると素敵だと思いませんか？
ちょっと贅沢なことを言えば、本当に難しそうな国を旅する時はその国のガイドの方を雇うこともあります。人気の観光スポットだと行列に並んでひたすら待つ、なんてこともあるんですけど、ガイドの方と回ると効率的に観光できるんです。お友達とみんなで費用を負担すると意外とお手頃、ということも結構あるんですよ！

朽ちていく「木」の文化だからこそ、行っておきたい場所が日本中にある

—— 今後行ってみたい場所はありますか？

私はニューヨークの一件以来、旅は全部「吉方位」で行くようにしているんです。その年に旦那さんと私にとって運の良い方角を基準にして、海外でも国内でも行き先を決めています。そうすると、方角である程度候補が絞れるので、行ったことのないところに行こうという楽しみもできるんですよ。吉方位を参考に北海道の網走に行ったこともあります。

—— 方角だけ先に決めて、その中から旅先を選ぶというのは面白そうですね！

せっかく旅に行くなら「そこに行くと運が悪いですよ」って言われるよりも良い方に行く方が楽しいと思うんです(笑)。今日は運がいいってわかっていたら気分も上がるし、ちょっと旅先でオマケしてもらったりしたら「ほら、やっぱり運が

よかった！」って盛り上がれるので、選択肢のひとつとして一度やってみるのもいいかもしれません。

—— 今後行ってみたい場所はありますか？

私は「もっと日本国内を旅行しないともったいない！」と感じています。海外の多くは「石」の文化なので、400年前の建物が残っていてそのまま使われている、なんてことも珍しくありません。でも、日本は朽ちていく「木」の文化。努力なくして残せないんです。なので「今のうちに見ておかなきゃ」っていうところがいっぱいあって。
大阪に住んでいた頃は「近いからいつでも行けるか」と思ってあまり行けなかった奈良とか京都とか、やっぱり兵庫とかももっと行きたいですし、中部地方も中国地方も…。今特に燃えているのは東北です。四季島という寝台列車に乗りたいのですが、競争率が高くて全然予約が取れません…（笑）。

「しゃあないな」と思わず言いたくなる僧めない主人公が大活躍（！？）

—— アンミカさんが出演されるドラマ「私ってサバサバしてるから」が2023年1月9日から放送予定だそうですね。元々原作の漫画は読んでいたのですが、とても面白いのでどのように実写化されるのか楽しみです！

とっても面白いですよね！私はこのドラマのナビゲート役をさせていただいていて、主人公は丸山礼ちゃんなのですが、もう役柄にぴったりで。

—— ドラマを通じて、アンミカさんが感じたことをお聞かせください。

ちょっと一風変わった個性がある人って世の中にはいますよね。その個性っていうのは、周りの人が「器」を試されるというところもあるなと改めて感じました。ちゃんと面白がれる・受け入れられる人という人もいれば、「迷惑だ」って言って締め出す人もいたりして。
私にとっては、このドラマの主人公はなんだか憎めないキャラなんですよ。「憎めない」ってすごく昔から大事なポジションですよね。憎まれ役がいるからこそ、作品がより面白くなったりしますし。
ちょっとクセの強い人って、今だったら「クセ強い」みたいに流行り言葉で面白がれる言葉がいっぱいできてるし、芸人さんが活躍している社会だから人を面白がるってできるじゃないですか。クセのある人との向き合い方がすごく器用になるドラマだな、と思います。
「しゃあないな」という関西弁があるんですけど。しゃあないなって言われる人って、いっぱい関西にいるんですよ。で、愛されてきたんですよ。許せるっていうか、「許さなしゃあないな」、という感じで(笑)。そういう今時珍しい我が道を行く人で、自分を信じて自分をとことん愛してるから、この主人公は見ていてとても気持ちがいいんです。
周りの登場人物に、だんだん「しゃあないな」って思えるスキルが身に付いていく様子を楽しんでみてほしいですね。

夜ドラ「ワタシってサバサバしてるから」

©NHK／FCC

NHK総合テレビにて、
2023年1月9日(月)より
毎週月～木 夜10時45分から放送予定。
<全20回>

自称「サバサバ(鯖)女」の網浜(丸山礼)が、ハートの強さと、歯に衣着せぬ言動で日夜事件を起こし続ける痛快共感型コメディー。アンミカさんは、網浜や職場の同僚・上司たちの生態を、魚に見立てて分析する謎の「お魚さん」役としてドラマをナビゲートする。

アンミカさん直筆サイン入り

ポジティブ手帳2023を抽選で1名様にプレゼント！

応募締切 2023年2月末日

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用申し込みフォームから！
http://www.jyh.or.jp/hm/　※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます

つづきをダウンロード（無料）

Hostelling Magazine vol.31
まとめてダウンロード

LiLiCoの映画で世界を旅しよう！…… P16

Cover Interview …… P02

アン ミカ

人生の選択に迷ったら、
心がワクワクする方へ。

おしえて！旅GIRL …… P17

Youth Hostel Pick up …… P08

大阪市立長居ユースホステル

スタジアムにある"だけじゃない"ユースホステル

松島むうの晴れときどき旅びより …… P18

Hostelling Mgazine×地球の歩き方 … P12

伝統文化と歴史に根ざした日
世界のイベント&祭り

YH-GUIDE ユースホステルガイド …… P20

東海/近畿地方

FYI, from HI-Office …… P15

発行所：一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島眞
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌の情報は2022年12月20日現在のものです。
　変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。